

Min. が直線的に追跡出来るのは、およそ 37° N 迄であり、それより南は不規則で追跡困難になることが多い。言い変えるならば、偏西風の強風域の南下を追跡することの可能なのは 500mb 面でおよそ 37° N 位(地上では 30° N 附近の frontal zone に対応する)迄で、それより南では次第にはやけて不明瞭になる。従って台風のような大きなエネルギーを持つ現象が偏西風帯の影響を受ける位置は、偏西風現象の強い 30° N 附近が最も適当のようである。

以上のような点を、台風が偏西風帯の谷にのる位置を決める目安とするならば、適当な緯度として 28° N から 30° N 附近が考えられる。

5603号の進路予想 以上を根拠として 3号の進路を次のように予想した。現在の位置から時速 15ノットで 30° N 迄北東進させると台風は 25日早朝九州南方に達する、ことになり、丁度東進して来た谷と遭遇する。ここから、この谷にのって、500mb の平均図の谷の前面に沿って北東に進ませる。こうして予想した進路および 140° E 線通過時刻が第 1 図の破線であり、鎖線は実際の経路である。

むすび 昨年の秋に台風の進路予想に使用したコンテナー平均図法は今年の春の台風に対しても有効であった。ただ今度の場合は平均図上の谷が移動している点が

昨年と異っている。今回の予想を行うに当って特に気付いた点を次に記す。

- (1) 平均図上の谷は 2.5度/日で東進する。
- (2) 平均図上の谷の走行に関しては中共の資料がない為、不明瞭であるが、ブロッキング現象がこの地域以東にない限り大体北東から南西に傾いていると見て誤らないようである。(1956年6月下旬から、中共の資料が入電したので、今後は、この問題は解決される)
- (3) 台風が偏西風の谷に乗る地域はおよそ 30° N 附近とし、可成り南方(23° N 附近)で北東に転向した台風は、必ずしも加速されず、転向直後あるいは数時間後の進行方向、速度で 30° N 付近まで外挿する。

参 考 文 献

- 1) 星野 保, 1956: 台風の進路予想の一方法, 天気, 3, 1.
- 2) 高橋浩一郎, 1952: 台風の移動について, 研究時報, 4, 1.
- 3) 大塚竜蔵, 1956: 秋の台風の進行速度およびその予想について, 研究時報, 8, 4.
- 4) Riehl, H. 1951: Forecasting in Middle Latitude.

教師のための気象観測

—その方法と気象の基礎知識—

加藤 藤 吉 著

明治図書出版刊行 A 5判221頁 定価380円

成蹊高校で 30 余年 1 回の欠測もなく気象の観測を続けられた著者が長年の経験をもとにして熱意をこめて書かれたもの。学校気象観測に従事しておられる先生方にとっては第 1 章学校における気象観測が参考となるだけでなく、第 2 章から第 13 章までに説明されてある気象の基礎知識の中からも珠玉のような著者の経験から出る言葉を読み取ることが出来るであろう。中でも東京都心とその西部の気温やその他の気象要素の変化を示すいくつかの図や表は、郷土の気象を解明しようとしておられる人にとって参考となる点が多からう。著者は(1)気象観測は正確でなければならない、(2)観測時刻を厳守せねばならない、(3)観測は長期にわたって続けないと価置が少くなる、(4)観測に欠測があってはならない、(5)観測は精神のこもったものでなくてはならない、(6)学校観測は学校の一致の理解と協力がなくては成功しない、(7)整理統計の必要、(8)候候所の観測結果との比較の必要を大切なねらいとしている。中でも観測精神を熱情的に強調する著者の筆勢に圧倒される人がおると同時に、抵抗を感じる人もあることであろう。不用意に用いられる観測精神という言葉とその内容についてはそろそろ掘り下げて考察しなければならぬものがあるであろう。内容については加筆願いたい事項も二三あるが、本書のような特色ある著作が学校気象観測で活用されれば、理科教育上益するところが多いことであろう。

(伊東 暈自)

寺田一彦著：気象災害

朝倉書店発行 定価 480円

内容は緒論、気象警報、気候の移動、台風、低気圧と突風、水害、旱害、落雷、冷害、雪害、霜害、結論となつていて、気象災害の殆んど全般にわたって記述してあるので、気象災害の一通りを心得るには都合のよい本である。それに社会と密接な関係のある方面の記述があるので、実際の生活と比較してみても気象災害の実体を捕えることが出来る。著者は長崎海洋気象台長として気象災害を取扱って来ているので、最近の災害を取扱っていて、その原因及び防止などに対する考え方も現在のものが述べてあると共に、実際の防止方法まで書いてある。

こういう意味においては大変よい本であるが、あらゆる方面にわたって書くことは非常に難しい訳で、どの部門も先端に行くことや、なお吟味すべき点を吟味することにおいて稍欠けている処があるように思う。あるべき点を吟味す処は自分の知識を本にして書いてあるので、読者のレベルももっと考えて貰いたい。又著者は九州にいた関係上九州の災害の記述が重い傾きがある。

かような欠陥は大体としてみれば誠に些細で、本書の価値を大して傷つけているものではない。程度も余り専門の知識を持たずとも読破することが出来る。印刷、製本、紙質共に上等であり、ミスプリントも少ない。難をいえば多少高価かも知れないが、これだけの本としては安い方であろう。この方面に関心を有する人々にお勧めする。

(小平 吉男)